

平成19年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施科目数 129科目 (外国語科目 (英語))
[内訳] 前期 65科目, 後期 64科目
2. アンケート用紙 4, 120枚
回収枚数 [内訳] 前期 2,041枚, 後期 2,079枚
3. 実施組織 大学側: 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会
学生側: なし
4. 実施方法

開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

集計結果は、部会員のみならず、大学教育センター運営委員会委員にも配付し、意見徴収。データ処理と分析を行い、結果を各教員へフィードバックする準備を進めている。

集計結果は「大学教育・学生支援機構報告書」にまとめ、学内全教員へ配付予定。以上のような取組を通じ、今後の授業改善等に活用する。

6. その他特記事項

18年度に実施した教養教育アンケートの結果(質問票の集計及び自由記述欄)から英語以外の外国語科目への学生の不満が読み取れた。

そのため、従来実施していた総合科目、学修原論のアンケートに替えて、外国語科目の授業評価アンケートを実施した。

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

別添 開講科目一覧、アンケート用紙(質問票)、集計結果(全体)

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成19年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施科目数 85科目 (英語以外の外国語科目)
[内訳] 前期 43科目, 後期 42科目
2. アンケート用紙回収枚数 2,107枚
[内訳] 前期 1,106枚, 後期 1,001枚
3. 実施組織 大学側: 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会
学生側: なし

4. 実施方法

開講授業科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

集計結果は、部会員のみならず、大学教育センター運営委員会委員にも配付し、意見徴収。データ処理と分析を行い、結果を各教員へフィードバックする準備を進めている。

集計結果は「大学教育・学生支援機構報告書」にまとめ、学内全教員へ配付予定。以上のような取組を通じ、今後の授業改善等に活用する。

6. その他特記事項

18年度に実施した教養教育アンケートの結果(質問票の集計及び自由記述欄)から英語以外の外国語科目への学生の不満が読み取れた。

そのため、従来実施していた総合科目、学修原論のアンケートに替えて、外国語科目の授業評価アンケートを実施した。

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

別添 開講科目一覧、アンケート用紙(質問票)、集計結果

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成19年度授業評価実施状況調査票

学部等名 大学教育・学生支援機構

1. 実施科目数 — 科目 (教養教育アンケート)
 [内訳] 前期 — 科目, 後期 — 科目
2. アンケート用紙 972枚
 回収枚数 [内訳] 前期 — 枚, 後期 — 枚
3. 実施組織 大学側: 大学教育・学生支援機構大学教育センター教育方法企画部会
 学生側: なし

4. 実施方法

必修科目担当教員を通じて質問票を学生に配付、回収。
回収した質問票は、外部委託によりデータ集計。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

集計結果は、部会員のみならず、大学教育センター運営委員会委員にも配付し、意見徴収。データ処理と分析を行い、結果を各教員へフィードバックする準備を進めている。

集計結果は「大学教育・学生支援機構報告書」にまとめ、学内全教員へ配付予定。以上のような取組を通じ、今後の授業改善等に活用する。

6. その他特記事項

7. 根拠資料(「アンケート用紙」,「集計結果」,「学生との話合いの記録」,「授業改善の取組み等の資料」等)

別添 アンケート用紙 (質問票)、集計結果

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は、本調査票と併せて提出 (1部) 願います。

平成 1 9 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 教 育 学 部

1. 実施科目数 465 科目
[内訳] 前期 252 科目, 後期 213 科目
2. アンケート用紙回収枚数 11,996 枚
[内訳] 前期 6,347 枚, 後期 5,649 枚
3. 実施組織 大学側: 学部長、授業評価ワーキンググループ
学生側: なし(フィードバック時のみ学生連絡会)

4. 実施方法

学部開講の全授業を対象とし、前後期とも第12回目以降のいずれかの授業終了5分前頃に実施した。教員退出後に受講生代表を通して配布・回収及び教務係りへの提出が行われた。なお、教育学部開講授業は多種多様な分野・授業形態を含むため、評価項目欄に授業担当教員が授業に係わる設問をひとつ追加できるようにして各授業評価を行った。

各教員への授業評価アンケート実施の依頼に際し、授業改善のための授業改善報告書の書式と記入例を添付した。なお、本書式での授業評価が適当でない授業に対してはその旨を記述した報告書の提出を要請した。

授業評価アンケートとは別に、学生から授業全般の改善に係わる直接の意見を求めるために「意見箱」が設置されている旨の周知を学生に図った。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

前期各授業の授業評価の集計結果と学生の記入した授業評価用紙とを11月に授業担当教員に配布し(後期分は4月中に返却予定)、次年度授業改善の資料とすることを求めた。12月12日の学部長・学生連絡会懇談会に各講座関係者、教務委員、等の出席を求め、授業評価用紙の自由記述部等にかかわる事柄に対応した。

また、これらの授業評価の集計結果は平成20年度の「特設の授業公開」の授業選考資料として及び平成19年度教育学部ベストティーチャー選考資料のひとつとして利用されるなど、授業改善のための選考資料として活用した。

6. その他特記事項

学部長と学生との懇談会では、授業に関連しては、特定の授業にかかわる意見・要望は無く、教育設備・教育環境に係わる意見が大半であった。これらは予算措置を伴うことでもあり、今後も整備に努めていくことで了解された。

また、各授業に対する受講生の評価結果及び意見は、各担当教員が次年度の授業に反映させ、再度の評価を仰ぐことになる。

7. 根拠資料(「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」等)

「授業評価アンケート」実施の依頼文(資料1)、「アンケート用紙」(資料2)、「集計結果」(資料3)、「学部長と学生との懇談会資料」(資料4)

(注) 1. 「6.その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。

2. 「7.根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成19年度授業評価実施状況調査票

学部等名 社会情報学部

1. 実施科目数 308 科目
[内訳] 前期 145 科目, 後期 163 科目
2. アンケート用紙 4,886 枚
回収枚数 [内訳] 前期 2,586 枚, 後期 2,300 枚
3. 実施組織 大学側: 社会情報学部FD推進専門委員会
4. 実施方法
(1) 各学期に開講されているすべての科目のアンケート用紙と回収用封筒を教員別に袋詰めしたものを総務係に用意し, 各教員がそれを引き取る。
(2) 教員は, 最終授業の終了10分前にアンケート用紙を配布し, 学生の中から回収責任者2名を指名して退室する(回収責任者には, 封筒に貼付されているマニュアル通りに回収作業を行うよう指示する)。
(3) 回収責任者は, アンケート用紙を回収した後, 封筒に入れ, 事務室に提出する。
5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み
FD推進専門委員会から各教員に, アンケート内容をよく吟味し, 各科目の第1回授業の際に, 「前年度の授業評価の結果を踏まえて, 本年度はどの部分をどのように改善していくことになったのか」を伝えるよう依頼している。
6. その他特記事項
学生が授業にどのように取り組んでいるかについても調査し(設問7~設問9), 各教員がその把握につとめている。
ベストティーチャー賞選考の根拠資料としている。
7. 根拠資料(「アンケート用紙」, 「集計結果」, 「学生との話合いの記録」, 「授業改善の取組み等の資料」等)
アンケート用紙

- (注) 1. 「6. その他特記事項」欄には, 学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7. 根拠資料」は, 本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成19年度授業評価実施状況調査票

学部等名 医学部医学科

1. 実施科目数 55科目(2年:17、3年:20、4年18)
[内訳] 前期 21科目、後期 33科目、通年1科目
2. アンケート用紙 158枚(通年での実施)
回収枚数 [内訳] 前期 _____ 枚、後期 _____ 枚
3. 実施組織 大学側:医学部教務部会
学生側:学友会授業向上委員会
4. 実施方法
医学科の学生自治組織である学友会の授業向上委員会において、該当(各学年)学生に配布し回収したものを学務課で受領、集計した。
5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み
本集計結果については、医学科教務部会に報告し例年実施しているFD(医学教育教授法ワークショップ)に於いて公表し、今後の授業内容等の向上の参考の供する予定である。
なお、高評価の教員については、ベストティーチャー石井賞として医学科独自での表彰を実施しており、もう少し授業内容を改善して欲しいとの意見が出された教員については、個別の当該評価結果をフィードバックしている。
6. その他特記事項
上記の記載の通り、学生の意見は医学科教務部会を通じて各教員に周知し、授業改善の一助としている。
7. 根拠資料(「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」等)
資料1, アンケート用紙
資料2, 学友会との懇談会資料(2回実施)(添付省略)
資料3, 平成19年度医学教育教授法ワークショップ資料(添付省略)

(注) 1. 「6.その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7.根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。

平成19年度授業評価実施状況調査票

学部等名 医学部保健学科

1. 実施科目数 280 科目
[内訳] 前期 143 科目, 後期 137 科目
2. アンケート用紙回収枚数 4,916 枚
[内訳] 前期 3,072 枚, 後期 1,844 枚
3. 実施組織 大学側：教育課程専門委員会、大学評価室委員（保健学科）
学生側：学友会（学生代表）、当該授業科目受講生

4. 実施方法

別紙アンケート用紙により前期・後期とも同程度の規模・方法で実施した。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

授業評価の結果については、学期毎に集計を行い各担当教員に集計結果をフィードバックしており、授業改善に役立っている。

なお、平成18年度からベストティーチャー賞が導入されたことに伴い、今後は授業評価の内容も参考とするため、アンケート内容の一部変更を検討している。

6. その他特記事項

集計結果（教務で作成したもの）を学生掲示板に掲示した。

7. 根拠資料（「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」等）

別添のとおり

- (注) 1. 「6.その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7.根拠資料」は、本調査票と併せて提出（1部）願います。

平成 19 年度授業評価実施状況調査票

学部等名 工学部・工学研究科

1. 実施科目数 199 科目
[内訳] 前期 110 科目, 後期 89 科目
2. アンケート用紙回収枚数 9,377 枚
[内訳] 前期 5,478 枚, 後期 3,899 枚
3. 実施組織 大学側：評価委員会委員
学生側：ワーキンググループ

4. 実施方法

全教員が通年で少なくとも1科目は授業評価を受けることとして実施した。学生側には、授業評価アンケートの実施、用紙の配布・集計をおこなうワーキンググループを組織してもらい、これが主体となってアンケートを行った。集計されたデータは、ワーキンググループによってとりまとめ、各教員にフィードバックされた。並行して、期間(2週間)を設けて授業公開を行い、教員相互のFDにも役立てる形式をとった。アンケート実施後、学生との意見交換会を設けた。また、後期においては大学院(博士前期課程)の授業評価も試行的に1専攻において実施した(この場合は 授業担当教員が配布・回収・まとめを行った)。

5. アンケート結果に基づく授業改善等の取組み

アンケートの結果を基に、各教員には改善案などの対応をお願いすると同時に、ワーキンググループと教員との懇談会を開催した。その席で出た主要な意見を、各教員に伝え学科・学部全体として共有する体制を取った。授業の実施形態としてすぐに変更可能な点(板書をゆっくりとする、マイクを使う、など)については、その旨の改善を行うようにしている。学生の共通的な意見として評価の高い点、要望点については、それらをまとめて全教員に伝え、学生の意識に適切に対応できるようにしている。これによって問題点などについての教員側の共通認識を持たせるようにしている。

6. その他特記事項

学生のレベルによっては、難しすぎるという意見とやさしすぎるという意見の両方が見られるものがあり、基礎的学力をある程度そろえていく、あるいは到達度別の授業を今後は考えていく必要があることが指摘できる。OA機器の利用は必ずしも学生の理解をあげることにはつながらず、適切に板書を併用することが学生の理解を高めるうえで重要である。また、大学院での授業評価においては、専門性が高いことと選択性であることを反映して、学生の評価は高い。ただ、大学院の授業アンケートの実施形式をどうするかは、授業の形式が多様であるため、今後検討しなければならない課題である。

7. 根拠資料(「アンケート用紙」、「集計結果」、「学生との話合いの記録」、「授業改善の取組み等の資料」等)

各学科の集計結果あるいは実施報告書(添付省略)

- (注) 1. 「6.その他特記事項」欄には、学生の意見がどのように反映されたかなどの事項を記載すること。
2. 「7.根拠資料」は、本調査票と併せて提出(1部)願います。